

特集「ネットワークサービスと分散処理」の編集にあたって

菅沼 拓夫^{1,a)}

2020年春から始まった新型コロナウイルス感染症の流行によって、社会が大きく変動しました。これに関連して情報処理分野においても様々な影響が発生してきています。サイバーフィジカルシステムの観点から見ると、人々は、現実空間での活動における感染リスクを回避するように、サイバー空間に大量に流れ込み、日常生活の場を中心にサイバー空間に移しました。このような急激な変化により、現実空間とサイバー空間の間のバランスが崩れ、特にサイバー空間側ではリソース不足やセキュリティに対する不安など、様々な課題が露見しました。今後のニューノーマルの時代では、ネットワークインフラやコンピューティングにおいて、現実空間とサイバー空間のさらなる高度な連携によって、それぞれの状況変化に柔軟に適応した安定かつ安心なサービス提供を実現する、様々な技術の研究開発がますます急務となっていくでしょう。

本特集号は、こうしたポスト/ウィズコロナ時代の新たなネットワークサービスを実現するネットワーク基盤技術、サービス技術、アプリケーション技術、分散処理技術、IoT/サイバーフィジカルシステム技術などに関する研究成果を取りまとめることで、当該分野の研究開発動向を探るとともに、同分野の研究開発を促進することを狙いとして企画されました。特集号編集委員会は「マルチメディア通信と分散処理」研究会の運営委員を中心に、末記のとおり構成されました。特集号には27編の論文が投稿され、4回にわたる編集委員会において慎重な審議を経たうえで、22編の論文が採択されました（採択率81.5%）。

採択された論文は「ネットワークサービスと分散処理」に関する幅広い分野、ネットワークアーキテクチャ、ミドルウェア、モバイル/エッジコンピューティング、データ流通など多岐にわたっており、いずれの論文も将来のネットワークサービス実現に必要な課題に対する解決策が議論されています。本特集が「ネットワークサービスと分散処理」に関する研究分野の発展や研究コミュニティの形成に貢献することができたら幸いです。最後に、特集号の企画・編集・論文査読・審査にご尽力いただいた幹事をはじめ編集委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。

「ネットワークサービスと分散処理」特集号編集委員会

- 編集委員長
菅沼拓夫（東北大学）
- 幹事
北形 元（東北大学）
- 編集委員
田上敦士（KDDI 総合研究所）、野呂正明（富士通研究所）、鈴木理基（KDDI 総合研究所）、廣森聡仁（大阪大学）、寺西裕一（情報通信研究機構）、中沢 実（金沢工業大学）、阿倍博信（東京電機大学）、重野 寛（慶應義塾大学）、加藤由花（東京女子大学）、安本慶一（奈良先端科学技術大学院大学）、大西健夫（日本電気）、重安哲也（県立広島大学）、吉廣卓哉（和歌山大学）、横山和俊（高知工科大学）、串田高幸（東京工科大学）、藤田茂（千葉工業大学）、安達直世（関西大学）、早川智一（明治大学）、西尾理志（京都大学）、佐藤永欣（岩手県立大学）、金子 雄（東芝）、川上朋也（奈良先端科学技術大学院大学）、小田切和也（椙山女学園大学）、後藤充裕（NTT サービスエボリューション研究所）、佐藤文明（東邦大学）、勝間 亮（大阪府立大学）、黒瀬浩（金沢工業大学）、井ノ口真樹（日本電気）、中嶋卓雄（東海大学）、赤木文彦（富士通）、滝沢泰久（関西大学）、林原尚浩（京都産業大学）、杉木章義（北海道大学）、柳澤秀明（徳山工業高等専門学校）、小田哲也（岡山理科大学）、金井 敦（法政大学）、後藤佑介（岡山大学）、中村素典（京都大学）、白石 陽（はこだて未来大学）、乃村能成（岡山大学）、星 尚志（KDDI 総合研究所）、原 英樹（千葉工業大学）、石原 進（静岡大学）、山口真悟（山口大学）、木下雅文（日立製作所）、藤本まなと（奈良先端科学技術大学院大学）、内林俊洋（九州大学）、安藤玲未（日本電気）、樋口拓己（パナソニック）、今井信太郎（岩手県立大学）、伊藤俊夫（東芝）、平山秀昭（目白大学）、森 郁海（三菱電機）、藤野知之（NTT 未来ねっと研究所）、木原民雄（デジタルハリウッド大学）、塚本良太（三菱電機）、梅森直人（NTT データ）、和泉 諭（仙台高等専門学校）

¹ 東北大学サイバーサイエンスセンター
Cyberscience Center, Tohoku University

a) suganuma@tohoku.ac.jp